

松花堂弁当

現代日本で松花堂昭乗に最も強いつながりのあるアイテムは「松花堂弁当」で、4つの等しい部分に分割された正方形のお弁当箱です。昭乗はよく、農家が種を運ぶために使っていた木箱に手を加え、絵の具や小物用の入れ物にしていました。その箱をより美しくするために、彼は、薄い漆塗りと自然をテーマにした墨絵を加えました。

このタイプの箱を、食べ物を供することに使うというアイデアは、有名な日本料亭「吉兆」の創業者が八幡で茶会に出席した1933年に生まれました。彼は昭乗が好んだスタイルの漆塗りの箱にインスピレーションを受け、その箱を彼の料亭で用いるために改作することを決め、「松花堂弁当」と名付けました。八幡市にある京都吉兆 松花堂店は、松花堂美術館の隣にあり、この独特な弁当箱の様式で伝統的な日本の高級料理を提供しています。